

15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
光雲2 ひろし 美枝子 青夏 はるみ		しんい ことは	凡士 かげろう	山菜 はるみ	ことは		山菜 きいち 喜夫 鶴城	俳翁 風舎	光雲 2	由美子 寒立馬 音思 のり子 允孝 稀香 たか子	光雲2 由美子 佳月 ひろし 青夏 道を 喜夫 俳翁 のり子 稀香 ほのる 六弦 いちい		小麦 凡士 きいち	
足生えて蝌蚪は尻尾を持って余す 尻尾の少し残っているのが可愛い。目の付け所がいいです！尻尾持て余してるんですね。	避難民に希望届けよ花ミモザ	暈目の残るスカート卒業式	涅槃西風終日くしやみ止めきれず プリーツを整えて布団の下に敷く寝押し、懐かしさ一入です。よき晴れの日となりますように。	春の野に千草はすべて名を持ちぬ 花粉症の句と解釈した、身につまされる。花粉辛いですよね。	つばくらめ一枚張りの空の色 「一枚張り」の空がいい。一枚張りが良い、青色の空が見える。空青一色の中を飛雄する燕、鮮やかさが際立っています。「一枚張りの空」にオリジナリティーがある。	薔薇の芽や頑固な父の咳払い そのうちに正しい日本語として定着するのかもしれないね。	亀鳴くや「ら」抜き言葉のアナウンサー 確かにタンポポの咲く藁屋根はのどか。うれいすね。多くの草花が芽をだしても誰も名前を知らない。	囀りのまだ覚束（おぼつか）な藪の闇 作者におぼつかなく聞こえた囀り。鳥もまだ手さぐりの鳴き声なのである。「闇」が重い。作者の心に潜む闇が何だか分からないが、覚束なくも囀りが聞こえる作者には、明るい春が予感されているのだろ	水温み躊躇ひもなく堰落つる 春の彩りに終止符を打ち、また来年まで春の絵具箱を閉じる。制服の寝押しの光景がタイムスリップ。短い春が終わることの思いでしようか。惜春が良く変わってますね。作者は春の景色を描いているが、季節はどんどん移り変わってしまおう。ゆっくり閉じるの中七に惜春の情が滲む。絵具箱をゆっくり閉じると、心に春を惜しむ情感が溢れていてとても良い句である。季語の情感・心情が静かに伝わってきた。	惜春やゆっくり閉じる絵具箱 象を置くことでおらかな春を感じました。鼻を上げていつばい空気を吸う象が見えます。存分にの措辞が効いている。待望の春の風を吸っているのが人ではなく象というのが出色春の風と、象の鼻の組み合わせが絶妙。下五の象の鼻で、動物園の景色が一気に浮かぶ。「存分に」が、こちらの肺にも春が満ちてくる。「存分に」がこの句の肝だと思えます。春風に像が鼻の穴を膨らませているさまが目には浮かぶ。象の鼻が春を吸い込む、春爛漫の表現が素晴らしい。	恋猫の夜声まねをし笑ひ合ふ 象を置くことでおらかな春を感じました。鼻を上げていつばい空気を吸う象が見えます。存分にの措辞が効いている。待望の春の風を吸っているのが人ではなく象というのが出色春の風と、象の鼻の組み合わせが絶妙。下五の象の鼻で、動物園の景色が一気に浮かぶ。「存分に」が、こちらの肺にも春が満ちてくる。「存分に」がこの句の肝だと思えます。春風に像が鼻の穴を膨らませているさまが目には浮かぶ。象の鼻が春を吸い込む、春爛漫の表現が素晴らしい。	春雷や止まった脈が動き出す が止まった？それは大変、雷様もよいことをしたのかな。春雷の驚きが良く伝わる。	清水や舞台の上の春コート	
後藤允孝	後記朝香	森美枝子	秋谷風舎	みづる	池田珪子	新曆文	しんい	光雲2	森佳月	荒一葉	河野凡士	新井史子	古賀由美子	檜鼻ことは

30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	マスミ	美枝子 珪子 稀香 朝香 いちい	暦文 ほのる	由美子 かげろう	山菜 ひろし		いちい 風舎 喜夫	京子	道を たか子			修	荒一葉	
流水や国と国とを繋ぎをり	アルプスの雪解の瀨音響き合ふ	レトルトのカレー温め震災忌	保護猫と暮らし十年喜寿の春	歌ふごと軽き足取り春日傘	青空や黒点となる揚雲雀	返事なき不安つつみて春シヨール	朽ち果てし野外劇場犬ふぐり	糸柳川風入るるカフエテラス	靴底を大いに減らし卒業す	新作のシヨウウインドウ春の宵	桜鯛不合格とは言へぬまま	縞模様富良野の畝の残り雪	耕運機音軽やかに春の畑	春寒や祇園に逆さ箒立ち
かげろう	倉田詩子	霜里	俳翁	立野音思	反町修	岡本たか子	龍野ひろし	丸山マスミ	ほのる	本橋稀香	青木鶴城	幸子	西村青夏	森下山菜

45	44	43	42	41	40	39	38	37	36	35	34	33	32	31	水明インターネット句会（選句・選評） 令和五年三月
	修	しんい 道を朝香	ことは 小麦				みづる	佳月 凡士 六弦		六弦		みづる	允孝 風子 風舎		
永き日に何処やら聞こゆ馬鹿笑い	佐保姫をいざなふ寺のライブかな <small>寺のライブのすばらしさを上手く表現</small>	退屈を楽ししむ小椅子水温む <small>何事も楽しみに繋げてくれる魔法の小椅子？ではなくて、前向き姿勢でおられる事に脱帽。水辺の折りたたみ椅子に共感。私もこのような小椅子があつて、のどかな春を楽しみたいと同感。</small>	春一番パーマネントの阿修羅像 <small>美しい頭髪はパーマネントでしたか。阿修羅像がパーマを当てるという発想が面白い。パーマネントとフルで書いたのも古くて良い。</small>	菜の花や今宵天麩羅すまし汁	時移り周りそのまま春となる	笑ひ声あつけらかんと卒業す	ミモザ咲くミモザハウスと呼ばれけり <small>目の前いっぱい明るい黄一色の輝きが広がる。</small>	夏蜜柑気丈な姉の嫁ぎ行く <small>夏蜜柑は力強いですね。お姉様と季語の取り合せが絶妙です。</small>	別れても雪の名残が燃えてゐる	浅草の春の俤に二人乗 <small>2人乗が外国の方なら嬉しいですね。</small>	制服のスカート折り上げ水温む	居続けの暖簾上げれば春の雪	「ただいま」も言はず飛び込む春夕焼け <small>自然の営みは誰はばかることなくそつと家に乱入してきます。面白く詠まさせていただきました。「春夕焼」を擬人法で捉えたところが新鮮。春夕焼けに、素直に感動した作者の気持ち清々しい。</small>	雲雀止み大地に動くものもなく	
新井史子	河野凡士	檜鼻ことは	古賀由美子	河野はるみ	寒立馬	持永喜夫	渋谷きいち	小林京子	網野月を	染谷風子	山中いちい	日高道を	木村小麦	石関六弦	

60	59	58	57	56	55	54	53	52	51	50	49	48	47	46	水明インターネット句会（選句・選評） 令和五年三月	
	風子 京子		佳月 俳翁 荒一葉 はるみ 鶴城				曆文 小麦 マスミ 寒立馬		京子	美枝子			朝香			
すれ違ふ若きランナー花堤	春眠の覚めて夢からまだ醒めず	春眠の気だるさがよく出ている。遊びのようだがユーモアがある。相当楽しい夢かと想像させる。言葉	荏苒の暮らし切替へ春迎ふ	水にいろ風に色あり春めける	海鞘食はばはや蠟涙の十二年	流水や望郷つる数多の碑	苗木植う成長した子の顔浮かべ	のどけしやたんぽぽ咲かせ藁の屋根	蓬餅蘊蓄添へる茶店かな	啓蟄や刺抜き地蔵の黒光り	ポスターに「0歳児募集」春の虹	途中下車とある喫茶のヒヤシンス	啓蟄や片減りしるき竹箒	青空に満面の笑みいぬふぐり		三代の雛飾りて孫笑顔
本橋稀香	西村青夏	幸子	後藤允孝	森下山菜	森美枝子	後記朝香	みづる	秋谷風舎	新曆文	池田珪子	光雲2	しんい	荒一葉	森佳月		

三五・中七がいぬふぐりのかわいさ、元気をよく表現している。

海鞘を食べる度に気仙沼を思い出します

季語の斡旋が意表を突く。

藁の屋根からたんぽぽの花、長閑の極み。タンポポを咲かせた藁屋根が本当にのどかな感じ。藁屋根にたんぽぽを咲かせる。今どきなかなか見られぬ風景。如何にもどか。家主の豊かな人間性も伝わってくる。ひらがなの「たんぽぽ」が良い。17音で表す光景、うまし・春真つ盛り。

75	74	73	72	71	70	69	68	67	66	65	64	63	62	61
珪子		音思	きいち		ほのる マスマ たか子 鶴城		のり子 珪子		しんい みづる		寒立馬		青夏 允孝 荒一葉	修 かげろう
うらうらや天動説を疑はず <small>あまりにも平和な春の陽に地動説でも天動説でも、どうでもよくなつてしまつたのですね。</small>	春彼岸太つちよ猫の背伸びして	名物の親爺廃業春尽けり	春一番波打つ草の堂々と <small>名もない草も春一番を待ち望んでいる、名も無き草に焦点を当てたのが良いと思います。</small>	公園の異国の踊り春の風	園庭の子ら春を呼ぶ「もういいよ」 <small>遊びの呼びかけが春をも呼んでいる明るさがよい。春は近いがまだまだ寒い。しかし子供は元気がかくれんぼ遊びの「もういいよ」が春を呼ぶようだ。今まで部屋に閉じ込められた生活から解放され、春を喜ぶ園児たちの姿が良く描かれていて、もういいよ」は遊びにも春を呼ぶ掛け声と両方にかかつていて句意を広げた。</small>	終の地と定めし故郷風光る	日差し伸ぶ小児病棟張子雛 <small>希望の光が見える一句。病気の子供達のためにとスタッフの心遣いが。</small>	へり行ける鈍色の空鳥帰る	花辛夷夕闇せまる印刷所 <small>春の夕闇に花辛夷の白さが際立つて圧巻です。白が際立つ辛夷の花と、夕影に濃く沈み始める建物の硬質感の対比が鮮やか。白が際立つ辛夷の花と、夕影に濃く沈み始める建物の硬質感の対比が鮮やか。</small>	縁側に砂塵うつすら春嵐	春空に煉瓦煙突酒の郷 <small>映像が鮮やかに心に浮かぶ。この酒蔵の酒はうまかろう。</small>	いにしえの灯台黒し春の湖	啓蟄や庭師の声の端切れ良し <small>庭師さんの剪定が上手いきき出来栄えが良かったのしようね。端切れの良い庭師の声が聞こえてきそう、季語と呼応した季節感が良い。</small>	この卒業子の二重の寂しさ。学生時代を思い出します。 第二ボタン外し待てども卒業子
染谷風子	木村小麦	日高道を	かげろう	石関六弦	霜里	倉田詩子	立野音思	俳翁	岡本たか子	反町修	龍野ひろし	ほのる	丸山マスマ	青木鶴城

								82	81	80	79	78	77	76
								音思					曆文 風子	
								老いてなお郷へ思い春の暮	嘯りも糞も激しや今朝の路	箸先にのせて露味憎エビス生	桃の花行きつ戻りつ三途川	靴紐が解けたのは春の星星	春驟雨頬に張り付く後れ髪 <small>後れ髪が色づぼい。春の雨の艶やかさがよく出ている。浮世絵を見るごとし。</small>	苗木市養子にもらい受けるかに
								寒立馬	河野はるみ	渋谷きいち	持永喜夫	網野月を	小林京子	山中いちい